

東都大学野球秋季リーグ戦 さあ1部だ名門復活 9月7日 専大vs東洋大



東都大学野球秋季リーグ戦(1部)が9月7日、神宮球場で開幕、8週にわたって熱戦を展開する。専大は7日の第2試合で東洋大と対戦する。

春季リーグで、7季ぶりに見事1部復帰を果たした専大。1つの目標を達成した選手たちは、1部で活躍できる喜びを胸に、さらに高い目標を目指し、チーム一丸となって練習に励んでいる。開幕までの彼らを追うとともに、今

秋も大きな活躍が期待される選手に話を聞いた。

7月20日から全体練習を始め、走り込みなど基礎トレーニングを中心に体力をつけ、秋のシーズンに備えた。そして、7月27日から8月9日までは北海道留辺蕊町で毎年恒例のキャンプ。日ごとの練習に加え、地元大学など3大学とオープン戦を行い、試合の感覚を取り戻すことで、初戦に向けて調整を行った。また、本拠地・伊勢原に戻ってから開幕直前まで他大学とのオープン戦が控えている。

堀田一彦監督は「チームは4年次生をはじめ、キャプテンを中心に良くまとまっている。春の入れ替え戦で得た経験と自信を生かして1部でも高い位置につけるように頑張りたい」と語った。

秋からは念願の1部でプレーする専大野球部の雄姿が見られる。2部から勝ち上がった専大が、1部で新たな相手に対しどんなプレーを見せるのか、活躍に期待したい。

(高橋奈津子・文2)

最後のシーズン ベストを尽くす チーム一丸で雰囲気もよい 佐竹道隆主将(経営4・浜松工高)のコメント

全体練習が始まり、チームが良くまとまっている。春シーズンを終えて、オフ中にチーム意識が低くなってしまった時があった。しかし、キャプテンとしてもう一度みんなに高い目標を持たせることによって意識を高めた。今はチームが一つになり雰囲気もいい。目標は1部でも1位。4年次生として最後のシーズンになるので、悔いの無いように頑張りたい。

シーズン通し投げる体力を 江草仁貴投手(経済4・盈進高)のコメント

春に自信がついたし、調子も上向いている。この夏の目標としては、春のリーグ戦では後半バテしてしまったので、秋はシーズンを通して投げられる体力をつけたい。(スカウトについて)まだ気になっていないが、秋季リーグできちんと結果を残すことが出来れば見えてくると思う。

晴れの舞台で5勝を目標に 加納大祐投手(商4・鎌倉学園高)のコメント

春シーズンはケガに苦しみ、だままだまし投げていた。しかし、入れ替え戦で気持ちが吹っ切れ、秋季リーグでは1部という晴れの舞台に立つことが出来るのでうれしい。今はケガも完治し、調子は絶好調。投手陣は自分を中心に後輩たちを引っ張っている。チームとしては1部優勝を目指し、また個人的には5勝が目標。将来はやはり、プロで投げるのが夢なので、活躍してスカウトにアピールしたい。

[8月15日/ニュース専修12面]

伊波、関東学生準優勝 日本学生ゴルフ出場権

関東学生ゴルフ選手権(千葉県鷹之台カンツリー倶楽部、7022ヤード、パー72)が7月30日から8月2日まで行われ、伊波芳准(経済3・西原高)が準優勝を果たし、日本学生ゴルフ選手権への出場権を獲得した。

初日から安定したストロークで記録を伸ばし、2日目からマッチプレーに臨む。1回戦は5アンド3で勝つも、2回戦は18ホールで決着がつかずエキストラホールを使い20ホールで辛くも勝利。準決勝では、昨年全日本優勝の東北福祉大・宮里優作と対戦し、3アンド2で見事勝利を収める。しかし、決勝は、5アンド4と敗退した。

「勝敗の決め方が普段と違うので大変だったが、日本を代表する人たちと試合が出来て良い経験になった」と話した。

(北野いづみ・文3)

[8月15日/ニュース専修12面]

藤原優勝、本選へ 毎日テニス学生女子S

第81回毎日テニス選手権の学生大会が7月6日から13日まで昭和の森スポーツセンターほかで行われ、藤原望(経営2・飛翔館高)が女子シングルスで優勝を果たした。

今大会からフリーエントリーの地区大会に加え、ワイルドカード大会と学生大会を新設。それぞれの優勝者は8月20日からの一般本選に進むことができる。藤原は本選に出たいという気持ちの焦りで序盤は不調だったが、途中からリズムを取り戻し、決勝で薬科由紀子(日大)と対戦6-3、6-2のストレートで下し、本選への切符を手にした。

(幸脇健太・文2)

[8月15日/ニュース専修12面]